

事例⑨ 物流体制の整備

青果物の輸送体制の見直しを行い、輸送・積み込み業務改善を進め「効率的で持続可能な物流体制の構築」を進めています。

今後は、各JAの産地ビジョンや生産振興計画に基づいた「県域・品目別の選果場構想」について、協議を行うことで、更なる物流体制の整備を進めていきます。



取組みの効果

- ①カーフェリーを利用した輸送量の増加(前年比120%)
 - ②トラック会社間の効率的な積み合わせ
 - ③配送ミス等の輸送事故の減少 など
- 物流の改善が図れ、**安定的な販売**につながりました。

事例⑩ 畜産販売の強化

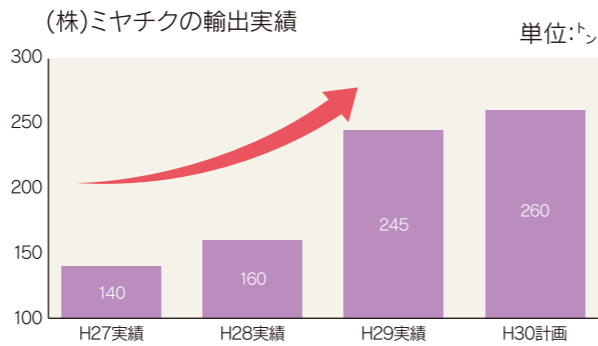
ブランド確立や、消費拡大に向けたPRを実践し、宮崎牛や宮崎ブランドポークの有利販売と販売拡大を進めています。宮崎牛は、国内での有利販売に向けた輸出拡大を進めており、平成29年度台湾向け輸出解禁時には、**全国でいち早く取組みました。**

牛肉の輸出量は245トンとなり、前年比149%と大きく伸びています。

今後も、ブランドづくりの最適なパートナー企業と連携による輸出拡大を図り、畜産販売の強化を進めます。



【牛肉の輸出実績推移】



JAグループ宮崎・JA宮崎経済連の自己改革は続きます。

本県農業振興のため、改善・改革を行い、選ばれる組織を目指します。

《JA宮崎経済連次期中期3か年(2019～2022年)計画のポイント》

使命

- 生産者の所得向上
- 宮崎県農業の発展
- 食の架け橋としての社会貢献
- 相互扶助による連携

経営理念

- 変革** 私たちは、協同組合として常に自らの変革に努め、組合員、消費者、社会のニーズに応えることのできる組織になることを目指します。
- 創造** 私たちは、「農業県[みやざき]」の持続的発展のために、新たな事業の創造に努めます。
- 貢献** 私たちは、「食」と「農」を通じ、豊かで活力ある地域社会を実現すべく地域と共に取組みます。

現場力

変化する環境を見据えた現場主義での事業基盤づくり

- 現場主義
- 指導購買
- 農業参入
- インテグレーション構築

総合力

事業連携による潜在能力の最大化とそれに基づく産地の牽引

- トータルコスト低減
- 事業連携
- 物流の改善・効率化
- バリューチェーン構築

実行力

緻密な計画に基づく確実な実行とチャレンジ精神による組織・人材の成長

- 明確なビジョン
- プロセス管理
- チャレンジ精神
- 人材育成

JAグループ宮崎・JA宮崎経済連

「自己改革」の取組

これまでJA宮崎経済連は、JAと共に組合員・生産者が生産する農畜産物の販売事業と、生産に必要な諸資材を営農指導と共に供給する購買事業を、その時代の政策や組合員・生産者の要望に沿って、機能強化を図り、協同組織のメリットと宮崎の豊かな風土を生かして、有利な販売・購買に取組むべく、改革に取り組んでまいりました。

これからも、多様化する組合員・生産者のニーズに対し、JAと協同会社を含むグループ全体で機能強化を図り、負託に応えてまいります。そのため、組合員・生産者の目線で本県農業の発展に寄与できるよう改革に取り組んでまいります。

本県の農業産出額と農業・農村振興長期計画の移り変わり 並びに JA宮崎経済連の主な事業の変遷

S35~45 S35 産出額271億円 全国第30位	宮崎県防災営農計画 《キーワード:防災営農》 台風時期を避けた営農方式の導入・定着 →早期水稲、施設園芸、畜産の導入
S46~55 S46 産出額865億円 全国第23位	新農業振興10ヵ年計画 《キーワード:食料供給基地》 食料の確保と食料供給基地づくり →畜産、園芸作物の振興による生産拡大
S56~H2 S56 産出額2,817億円 全国第16位	第三次農業振興長期計画 《キーワード:暖地営農むらづくり》 暖地営農むらづくりを目指して →地域農業振興と集落営農の展開
H3~12 H3 産出額3,717億円 全国第7位	第四次農業振興長期計画 《キーワード:みやざきブランド》 みやざきブランド確立と活力あるむらづくり →作ったものを売るから売れるものを作る
H13~16 H13 産出額3,088億円 全国第8位	第五次農業・農村振興長期計画 《キーワード:国際化》 大競争時代を勝ち抜く活力ある農業・農村の創造 →国際化における産業競争力の強化
H17~22 H17 産出額3,206億円 全国第6位	第六次農業・農村振興長期計画 《キーワード:食の安全・安心》 元気な担い手で創る食と農の新時代 →食と農の構造改革と食農ネットワークづくり
H23~32 H23 産出額2,874億円 全国第7位	第七次農業・農村振興長期計画 《キーワード:「連携」と「参入」》 「農」を核とした多様な「連携」と「参入」の促進 →みやざき農業の新たな成長産業化
H28~32 H28 産出額3,562億円 全国第5位	第七次農業・農村振興長期計画 後期 新たな時代の変化に対応した みやざき農業の成長産業化

昭和48年、昭和54年

園芸・畜産の生産振興が進む中、産地での付加価値づくりのため、宮崎県農協果汁(株)、(株)宮崎くみあい食肉(のちの(株)ミヤチク)を設立



昭和57年

畜産振興や畜産農家の負託に応えるため、全農・鹿児島県経済連などと南日本くみあい飼料株式会社を設立



昭和54年、昭和59年

肥料のコスト低減や地域に応じた生産性向上のため、BB肥料を製造する肥料供給センターを設置し船での原料受入や土壌診断等を行う農産物総合検査センターを設置



昭和61年、平成4年

本県農畜産物の有利販売のため、より良い宮崎牛づくり対策協議会や、みやざきブランド確立推進本部を設立



平成20年

燃油高騰による過去最大の資材高騰に対応するため、およそ11億の生産基盤維持緊急対策を実施

平成22年

口蹄疫復興の産地対策及び露地園芸振興や六次産業化推進のため、(株)ジェイエフーズみやざきを設立

